黙示録

フェニックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
黙示録

【Ｎコード】
Ｎ２５２０ＢＡ

【作者名】
フェニックス

【あらすじ】
人間の心を守るカオス軍。巣食うソーサラー軍。それはカオス予備軍の学生の物語だった。

南条　列。通称、烈火のシャクヤ。兄、隼人。通称、シルバーオックス。列の恋人であり幼馴染みの祐希みずほ。通称、水虎のキョウカ。同じく幼馴染みのパトリック・レドガー。通称、鋼のトウゴウ。

彼らは学園と人間の心の世界を行き来する。

ある日、廃墟となった病院の医者の心をソーサラー軍に占拠された。一夜にして崩壊した病院。医者の心に介入したカオス予備軍に待っていたのはかつての同僚がソーサラー軍の毒素で変わり果てた姿、夜叉の死神だった。

死神は死神四天王をたずさえ、シャクヤ、シルバーオックス、キョウカ、トウゴウに決戦を要求するのだった。一回戦、シャクヤ対デット　ナイト。ナイトの正体はシルバーオックスの師匠、ムーンドゥースだった。新しい必殺技を携えたシャクヤはムーンドゥースの修行を終える。二回戦、キョウカ対デット　ワイパー。圧倒的な力に屈するキョウカ。それを見たシャクヤは乱入し二人の絆で打ち倒す。一応、反則負けだったが、勝負は1対1。最終戦はタッグマッチを要求され、シルバーオックス、トウゴウ対デット　モンク、メイジ組だった。モンクは魔法で身体能力を強化し、メイジはトランプのカードを使う。かつて無い戦いにムーンドゥースはメイジの正体を暴こうと四人の戦いを見る為、駆けつけるのだった。

黙示録

ムーンドゥースはデット　メイジの正体をなんとなく掴んだ。彼は、ちょうどこの世界が人間の心を監視し始めた頃の戦士の末裔だった。だが、シルバーオックスと鋼のトウゴウは知らなかった。

［さて、どうする？トウゴウ。今の所、奴はノーダメージだ］［わからない。彼の様な能力は解析できないんだ。その場に合ったカードを召喚する。シルバーオックス。もし彼が本当にカードのディーラーなら心理戦が有効だ。ディーラーは精神が揺らいだ時、ミスを犯すと言う］［精神が揺らいだ時？例えば相手より強いカードを出した時とか？だが俺達は召喚カードなど使えんぞ］［ジャックの鷲で対空攻撃。クイーンの熊でガード。エース騎士で攻撃。……今出したカードで何が出来る？逆利用できそうなカードは？］

［ヒョヒョヒョ……なあメイジ。そろそろチェンジしようぜ。あきちまう前にな］［モンク。まあそう焦るな。奴等も動揺してるのさ。あのムーンドゥースは気づいたらしいがな。ナアお師匠さんよ。そろそろ教えてやんなよ］

［ムーンドゥース師匠。彼は何者なんです？］

ムーンドゥースは腕を組み静かに話した。［……メイジ。君は我々の心が読めるらしいな。……シルバーオックス。我が弟子よ。よく聞け。人は過去を忘れたがる。そこに秘法があるからだ。彼は何者なのか？私の推理が正しければ彼は今から1万年前の戦士の末裔。滅んだはずの古代文明の末裔。彼らの能力は今の科学でも解明出来ない部分がある。あくまでも臆測の範囲だが……］［正しいさ。その推理は。俺の名はファウストのメシア。この世界の創始者の末裔。死神は利用したに過ぎない。我々は滅んだ訳ではない。人間の精神の世界に幽閉されていた。それを掘り起こしたのが死神。ただ、それだけだ］

［死神！お前はなんて奴を解き放った！］［申し訳ございません。夜叉の鴉様。そんな事とは知らずに彼のトリックにかかり……］［言い訳は無用だ！私はスパイダー様にご報告をする！お前は見届けるのだ！］［……ハア。すいません］

［ヒョヒョヒョ。そいつぁーすげーや。俺もやり合いてぇなあ］［構わんが。どうせお前も死神四天王などで収まる器ではあるまい。私も自分の実力がどこまで通じるかわからないんだ。特別サービスをしよう。キングカード　オープン！］メイジはモンクと死神にキングカードを投げた。

［なんだ？何も出てこない。失敗か？］

［……シルバーオックス。鋼のトウゴウ。私もタッグを組みたい。どうだね？君らさえ良ければだが……］

［ンンーン……アノ～……すいませんが……ナゼ僕はここに？］［ン？お前の名は？］［僕はエドワード・スカイ。アノ～……この鎖鎌に黒装束。……何ですか？コレ］［……私はシルバーオックスの師匠。ムーンドゥースだ君は……カオス軍かね？ソーサラー軍かね？］［カオス軍に決まってるじゃないですか！それよりココ、どこです？それにシャクヤ先輩にキョウカさんが倒れてる。何してるんですか？回復を急がないと］［死神……何も覚えて無いのか？何も］［死神？僕はエドワード・スカイですよ！誰ですそれ？］

［シルバーオックス。聞け！死神のソーサラーの呪いが解けた。そのカードは］［浄化のキング。私からのプレゼントさ］［って事は……モンク。お前］［あんたらカオス予備軍だろ？なら俺の仲間さ。空いてるんだろ？隣。俺もやるぜ。良いだろ？］［……ど

うする？トウゴウ」［浄化したなら大丈夫じゃないか？戦力も必要だ。頼めますか？モンクさん］［あのよ、ソノ～……モンク？なんかねーのか？他に言い方］［ジャーお名前は？］［そーだなー。何でも良いがシェオロン。一応、俺もファウストな。ヨロシュー］［君も幽閉されていた。そうかな？］［まあな。いずれそこのメシアともケリをつける日が来ると思いながら1万年。カー根性ワリーナー俺は。まあ良いか？］スーッと息を吸い込み気合いを入れる。［ヨッシャー！ファウストのシェオロン！コレより貴公等を援護する！心セヨ！］

［死神。良いのか？……って……いなかったな］［ダーカーラー！ムーンドゥースのお師匠様。死神って誰なんです？手伝って下さいよ。二人の回復］［二人、驚くだろうな。また倒れなきゃ良いがな］トウゴウは笑った。［さて、役者は揃ったな。1対5。ウチ二人は戦力にはならないから、引いて3だ！］

続く

黙示録　その2

デットメイジ。彼は1万年の時を越え人間の精神に幽閉された戦士、ファウストメシアだった。同じく幽閉されていた戦士がいた。ファウスト　シェオロン。彼はシルバーオックス、鋼のトウゴウの元に歩み寄る。

［へ？僕が彼らを解き放った？……そうなんですか？すいません。全く覚えて無くて］［イヤ。良いんだ。エドワード。戻っただけでも大収穫だ］［そうですね。一応、ソーサラーみたいだったですから。僕は］［気にするな。今はカオス予備軍。そうだろ？］［受け入れて頂けるなら。学園長。どうです？］

［ザーザー……良かろう。エドワード　スカイ。これより援護に向かえ！今、衛生士を送った。こちらから信号を送るより直接、行った方が効果があるからな。頼めるかな？エドワード　スカイ。ファウスト　シェオロン］

［ハイ。ありがとうございます］［充分、活躍させてもらうぜ］

［スパイダー様。ご連絡があります……］［ナニ？夜叉の死神が黙示録を解いた。……鴉よ。案内しろ！ワシも出る。丁度良いではないか？我が息子、双子が黙示録を連れてきた。樹は熟した。大輪の樹に果実を実らせて。コレを逃す理由もない！出立の用意を］

［スノ……スノ。失礼しますの。ハラハラ！大変ですの！お注射ですのー！］［……スノちゃん？スノちゃんか？……来てくれたのか？］［それだけでは無い］［アッ……貴方は。先生。アカデミック　カイザー！］［生徒を送り出すのが教師の仕事だ。二人の回復は我々に任せて行け！エドワード！彼らに加勢しろ！］［ありがとうございます。先生！］［忘れ物だ。受け取れ］［僕の武器。忍者カゲツの］［ウム。変身だ！早く装着しろ！］

［アカデミック　カイザー。１つ勉強させて貰ったよ。カオス予備軍の絆を。我が弟子、シルバーオックスや少年たちの夢の道を。彼らの力はソーサラー軍を越える。良き弟子を持ったなお互いに］［ムーンドゥース。我々の出番もくれなそうですな。引退ですかな？］［フフフ。歳はとりたく無いものだな。どうだね？コレが終わったら一杯やらんかね］［喜んで。期待してますよ。ムーンドゥース］

［忍者カゲツ！装着！］ガシュッ

［おかえり。カゲツ。待っていたよ。よく戻って来た。サア。行こう！］［ハイ！トウゴウ先輩！］トウゴウは手を差し出す。その手をしっかり握るカゲツ。

［ヨオ。出戻り。もう放すなよ］［シルバーオックスさん。わかってますよ。一度地獄を見てますから］［頼むぜ！相棒］シェオロンとカゲツはリングサイドについた。［シルバーオックス。バックアップは任せろ。俺達がいる］［アア。行くぞ！メシア！］［話しは終ったかね？君達。なら、ゲームを続けよう］［メシア！必ず揺さぶってやる！貴様のその自信を！今日でカジノは閉鎖だ！］

続く

黙示録　その3

［サア、次のカードをきろうかね？ジャックカード！オープン！］

［クッ……来たか。槍を持つ騎士］［シルバーオックス！跳べ！上空から攻めるぞ！］［イヤ。違うな。俺に策がある］

シルバーオックスは金網をかけ上がりメシアに向かう。［無駄ですよ。スピードでは勝てませんから。追え！ジャック！］［イヤ。はなからスピード対決など望んでいない。ジャック。お前の周りが手薄になる瞬間を待っていた。そしてガトリングを引き……］

ガシュコン

［一気に畳み掛ける。ズガガガガッ！］［ナニ？三角跳びから旋回してマシンガン。戻れ！ジャック］［オセーワ！捕らえた！ジャック。至近距離で銃撃と槍。どちらに軍配が挙がる？槍はリーチが長い分、至近距離では無力だ！喰らえ！弾丸烈波！］シルバーオックスはありったけの弾丸を至近距離で当てた。

ズガガガッ……ドカーン！衝撃と共にジャックが落ちた。［やったか！］［イヤ。寸前でポイントをずらしている。おそらく……］爆風の中、ジャックは仁王立ちしていた。［やはり。ダメージ

は少ないか］

［パチパチパチ……当てた位だな。少しだけ。君達はこのカードの実体を知らないだけだ］［カードの実体？］［そう。カードの実体。カードはしなる。ナゼだと思うかね？それは攻守一体だからさ。その撓りが攻撃と防御を両立出来るからだ。そこから召喚されたジャック。彼に死角は無いのさ］［……脆さ故に最強か？どうりで空を斬る感覚しかなかった訳だ。カードの騎士ジャック］［替われ！俺と！やりたくてしゃーねーや］［シャオロン。……どうする？トウゴウ］［シルバーオックスさん。奴の素性が見えただけでも充分です。補給して下さい］［わかった。すぐに行く］

シルバーオックスはシャオロンとチェンジした。［頼んだぞ。新人。少しづつでいい。奴に隙を］［オオヨ。わかってらーに。んじゃま、行きますかね。メシアさんよー］［……フン。来たか。同志。ありがたく思え。私のゲームに参加出来て］［ッタク、テメーア、１万年前から変わらんな。メシア。いつもそうやって見下して］［見下す？失敬な。ゲームに参加出来ただけでもありがたく思わなきゃ］［ヘイヘイ。また上からね。フリーンだよなー！オドリャー］シャオロンは如意棒を握った。

グロロローッ［黙れ！ジャック！俺は奴に用があるんだって！って

……退いちゃくんねーよな。んじゃマ、イゴーか？］如意棒、対、槍。リーチは一緒だった。

［どう見る？トウゴウ］［リーチが変わらなければ後はテクニック。魔法の騎士と魔法で強化したシャオロン］［イエ。違います］忍者カゲツがコタチを眺めながら話す。［良いですか？ジャックは攻守一体だと聞きました。だとすると無駄に動かない方がベストなんです。動けば奴の力を発動させる事になりますからね。かの有名な巌流島の武蔵と小次郎もそんな戦いだったみたいですよ］［心折れた者が動く。不動心だな］［そうですね。実際シルバーオックスさんの攻撃で悟ったんですがね］

二人はジリジリと距離を詰める。お互いの剣先が触れた瞬間、お互いの動きが止まった。［これからだ。勝負は］［あの空間。誰も入れない威圧感。これが1万年前の戦いか？］

アリーナは静まり返っていた。風も空気も全てを超越した空間がそこにはあった。

続く

黙示録　その４

メシアの召喚したジャック。人間の精神に幽閉されていたシャオロン。剣先が触れる間合いでお互い止まる。ジリジリと詰め寄るジャック。迎え撃つシャオロン。

［これぞ達人の間合い。呼吸する余裕すらない］［先に動けば負ける。かと言って何もしなければそれまで］［介入する余地さえ与えない。これが間合いの極意か］

三人はただ見守るしかなかった。

［ここか？例の場所は？］［左様で。行きましょうか。スパイダー様］［ウム］

［ン？ソーサラーの介入信号？誰だ？］トウゴウは上空を見上げた。［デカイ信号が２つ。１つはさっきの夜叉の鴉。もう１つは……］［スノッ……スノッ……スパイダーですのー！ビョエーイ］［スノちゃん。スパイダーだって？本当か？］［山が動いた。奴が］シルバーオックスは上空を見上げた。［スノちゃん！早く二人を隠して！僕も行く！］カゲツはリングサイドから飛び降り、シャク

ヤとキョウカの元へ走る。

バリバリバリッ……ズガガーン！天井が割れ、２つの黒い影が降りてくる。

［ごきげんよう。諸君］カラスを両肩に乗せ、カラスの羽の黒いマントをたなびかせ夜叉の鴉が挨拶をする［貴公等の観戦に来た。都合が良くてな。これで後継者と１万年前の戦士が手に入る］青銅の錆びた鎧を纏いし男。黒いフードに身を包み、全てを闇に包むインパクトと共にスパイダーが降り立った。

［貴様が我が父、スパイダーか？］［シルバーオックス。久しぶりだな１５年ぶりか？我が息子よ］［黙れ！何をしに来た！］［観戦にと言わなかったかね？］［観戦だと！うぬぼれるな！貴様を父親と認めた事は無い！これまでも。これからも！ナゼ、カオス軍を裏切った！］［サアな。なんせ１５年前だ。忘れたさ。なんせ昨日、殺った人間も忘れた位だ。しょうがないだろう？それよりあの二人。なかなかの達人よのう。我々が来ても微動だにせぬ。見せてもらおうか。ファウストの力とやらを］［スパイダー様。お疲れでしょう。サアサア。お掛け下さい］［ウム。くるしゅうない。楽にいたせ。鴉よ］

二人はいまだに距離を量っていた。［チッ。隙も糞もありゃーしねーぜ。どうするね。シャオロンさんよー。仕掛けるか。……行かなきゃいけねーかな？隙がネーナラこっちから誘うまでだ。チッター、ヘビーかも知れんが、やるっきゃねーな。行くぜ！トウリャッ！ハイ！］

如意棒がジャックの顎を捉える。ぐらつきバランスを崩すジャック。［面アリ！一本！ヨッシャッ！畳み掛けんぜー！覚悟シイヤー！……セイ！セイ！セイ！ウオッリャーッ］シャオロンの如意棒が無数の残像を残し、ジャックに当たる。［トドメじゃい！ヒョーゥー］シャオロンは地面に如意棒を突き、天高く舞い上がる。［俺流殺法～！天・誅・殺！］素早く如意棒を戻し、ジャックの頭を上空から撃ち抜く。

［クッ。戻れ！ジャック！カードクローズ！］ジャックのカードがメシアの手に戻る。

クルクルクルーッ。如意棒を回しながら着地するシャオロン。［ハイ！どうでい？メシア。んまぁ肩慣らし程度にな。暫くは使えんだ

ろうが。そのカードは。ザンマーネーナー。出てこいや！んな小手調べでオリャ倒れんぞ。だろ？］［らしいな。シャオロンさん。その繊細さと大胆さ。素敵ですねぇ。宜しいんですか？私を挑発して？］［挑発ダア？先に仕掛けたのは誰だったっけねぇ？］［クックックッ……私だが何か？］［次は何だ？ピエロさんよ］［もう少し、楽しませて下さいな。カードナンバー　セブン！オープン！］［ナンバー　セブン？聞いたコタ～ねーぞ。何だ？］

シャオロンの影が盛り上がる。［ナッ……何だ？俺の影が……］［私の好きなカードなんでね。取っておいたんですよ。お後は、エースカード！オープン！二重召喚！］メシアはエースカードを上空に投げた。ピィギィー。鷲が召喚される。［ゲゲッ……鷲カヨー。まっじーなー。俺の影に鷲。ハ～……どうすんべ？］［俺が行く！シャオロンは影を］［トウゴウ！ありがてーや。任せんぜ。俺の上はキッチリ守れや！］［了解！撃ち落とす］

シルバーオックスはスパイダーを睨んでいた。

［オヤジ！俺に恥をかかせないでくれよ！介入はするな！］［良く吼える狼だ。さすが我が息子だな］［認めた覚えは無い。言ったはずだ！ジイサン！］

続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2520ba/

黙示録

2012年1月10日17時52分発行